

名残の唄

作・木村繚真

〔登場人物・女性2〕

鞠子
八重子

幕が開く。
舞台は鞠子と八重子の部屋。
ベッドが2つ。その他、机など生活感のある物を置
ければなお良い。空間は敷物や家具、照明等を用い、
部屋として制限する。
ベッドに寝転んで雑誌を見ている鞠子。
そこへ風呂上がりの八重子がやってくる。

八重子 あいたよ。
鞠子 ー。

八重子、頭にタオルをのせ、ぼーっと窓の外を見
ている。

鞠子 外に何かいるの？
八重子 いや、別に。

鞠子、ベッドに置いていたタオルとパジャマを手に
取って、出ていこうとするが、

鞠子 あのさ。
八重子 ?
鞠子 何かあるなら話聞くから。
八重子 ……どうも。

鞠子、出ていくがすぐ戻ってきて、

鞠子 座って。

八重子 え、
鞠子 座りなさい。
八重子 お風呂は
鞠子 いいから。

鞠子、八重子をベッド（八重子の）に座らせる。
鞠子は自分のベッドに座り、向き合って話す。

鞠子 うちら、一応姉妹なんだよ。

八重子 うん。

鞠子 もう半年になる。

八重子 5カ月。

鞠子 ……そろそろさ、腹割って話してもいいと思うの。

八重子 じゃあ、腹筋しないと。

鞠子 ……

八重子 腹を割るって。

鞠子 ああ、そういうことか。

八重子 （つまらなそうな顔）

鞠子 またその顔。

八重子 だって。

鞠子 わかりにくいのよあんたのボケは。

八重子 八重子。

鞠子 え？

八重子 あんたじゃない。

鞠子 ……で？ 八重子。

八重子 はい。

鞠子 どうしたの。

八重子 (両頬を膨らませる)

鞠子 ふくれっ面しない。

八重子 お姉ちゃんぶって。

鞠子 別にそういうわけじゃないよ。

八重子 じゃあどういうわけ？

鞠子 一応あんたより

八重子 (睨む)

鞠子 八重子より、年上だから。

八重子 2つだけ。

鞠子 私は高校生。八重子は？

八重子 もう、こんな人ばかり。

鞠子 なに。

八重子 人のこと子ども扱いして。何言っても聞いてくれな

鞠子 いくせに、命令ばかり。

八重子 別に命令してるわけじゃ

鞠子 してるんだよ。

八重子 ただ何があったか知りたいだけ。

鞠子 知らなくていい。

八重子 じゃあしつかりしなさいよ。

鞠子 してるし。

八重子 どこが。

鞠子 どこもかも。

八重子 朝起きないし、ご飯もあんまり食べないし、ぼーっ

鞠子 としてるし。

八重子 それは、テストのせいだし。

鞠子 違う。

八重子 なんでそんな言い切れるの。

鞠子 わかんないけど、

八重子 わかんないんじゃないん。

鞠子 もう半年も同じ部屋で寝て起きて、ご飯も一緒に食

べてるんだから、わかるよ。

八重子 まだ5カ月。

鞠子 充分よ。

八重子 おせっかいだなあ。

鞠子 嫌でも顔を合わせる相手が、ずっとげっそりしてた

八重子 ら気になるのよ。

鞠子 げっそりしてる？

八重子 してる。

鞠子 とう。

八重子 体重どうなの。

鞠子 プライバシー。

八重子 はっ(一笑)。

鞠子 教えてくれたら教えてもいいけど。

八重子 あー、そう。わかった。もういい。時間の無駄だっ

鞠子 た。

八重子、パジャマだけ持って去る。

鞠子、八重子がタオルを忘れていることに気づき、

手に取って持っていくこうとするが、

鞠子が戻ってくる。

八重子はタオルをお尻の下に隠す。

鞠子 タオル忘れた。

八重子 ……

鞠子 はい、かして。
八重子 質問に答えてくれたら返してもいい。
鞠子 別のタオル使うし。

鞠子、部屋から出ていこうとしたところ、
八重子が鞠子の背中に丸めたタオルを投げ当てる。
振り返る鞠子。

八重子 男の子。
鞠子 なに？

八重子 男子と、その、付き合ったこと、ある？

鞠子、きよとんとしていたが、
一気に満面の笑みになり、

鞠子 ちよつとちよつとちよつとー！

鞠子、八重子のベッドに飛び乗る。

八重子 わっ。

鞠子 そういうことならもつと早く言ってくれなきゃ。
八重子 ちよつと、ひとのベッドにのぼらないで。

鞠子、八重子に押し出され、自分のベッドに乗る。

鞠子 同級生？
八重子 え？

鞠子 好きな人、同級生？ 先輩？

八重子 先輩いないし。

鞠子 じゃあ高校生？ えー。

八重子 まだ何も言っていないし。

鞠子 恋の相談なら任せてよ。

八重子 面白がつてるね。

鞠子 あのね、恋って化学薬品よ。取り扱い注意。いい薬にもなるし悪い薬にもなる。

八重子 したことあるの？

鞠子 そりゃ恋したことない人間がどこにいるの。

八重子、自身を指す。

鞠子 え？

八重子 したことない。

鞠子 今してるんでしょ。

八重子 わかんない。

鞠子 どういうことさ。

八重子 だから、恋してても恋したことなかったら恋かどう

かわかんない。

鞠子 待って待って。

八重子 ……。

鞠子 じゃああなたにか。あれか。そうか。なるほど。

八重子 一人で納得しないでよ。

鞠子 わかった。こうしよう。

八重子 どうしよう。

鞠子 とりあえず、写真ある？

八重子 なんの。

鞠子 だから、思い人の。
八重子 やだその言い方なんか気持ち悪い。
鞠子 じゃあ名前教えてよ。
八重子 ……
鞠子 マサオ？
八重子 違う。
鞠子 ジュンイチ？
八重子 違う。
鞠子 じゃあ
八重子 言えない。
鞠子 なんでえ。
八重子 それは、もうちよつと後。
鞠子 もつたいぶつちやつて。
八重子 私が聞きたいことに答えてよ。
鞠子 なんだっけ。
八重子 付き合ったことある？
鞠子 ……どう思うー？
八重子 めんどくさいー。
鞠子 ちよつとは興味もちなさいよ。
八重子 男に縁がなさそう。
鞠子 どこが。
八重子 顔。
鞠子 えっ。
八重子 髪型。
鞠子 えっ。
八重子 喋り方。
鞠子 ちよつと。

八重子 立ち振る舞い。
鞠子 ストップ。
八重子 性格。
鞠子 おいっ！
八重子 言葉遣い。
鞠子 おだまりっ！
八重子 言論の自由を奪うところ。
鞠子 中傷していいってことじゃないんだからね。
八重子 どこがって聞いたのはそつちじゃん。
鞠子 ストップって言いましたー。
八重子 車は急に止まれませんー。
鞠子 えっ。あんた車だったの？ いやー、気づかなかつた。今どきの中学生は車なのかー。
八重子 ムキになって。
鞠子 そつちが屁理屈言ったんじゃん。
八重子 本当のことだもん。
鞠子 本当のことでもね、言わないほうがいいことだってあるのよ。
八重子 はー。でた。
鞠子 なに。
八重子 大人の都合のいい理屈。
鞠子 全部知ることが良いとは限らない。
八重子 はっ（一笑）、浮気とか？
鞠子 ……あんたね、
八重子 私は知って良かったよ。じゃないと納得なんてできなかった。
鞠子 言つとくけど、私の親は浮気なんてしてないから。

八重子 あーそれは良かったね。どうせうちのお父さんとは

違うよね。

鞠子 そういうこと言ってるんじゃない

八重子 わかってるよ。

間。

八重子 運いいじゃん。口うるさくないし、よく笑ってくれ

るし、いいお父さんだ。

鞠子 どうだろ。

八重子 そうだよ。

鞠子 仕事ばかりで、ほとんど家にいなかったんだよ。

今良くても、もう遅いんだよ。

八重子 でも裏切ってるじゃない。

鞠子 ……だと良い。

八重子、鞠子を見る。

鞠子、目線を外す。

八重子、鞠子のベッドに乗って執拗に目を合わせようとする。

鞠子 ちよつと、やめ、ねえ戻って。

八重子 やっぱ。似てるね。目と鼻のあたりがそっくり。

鞠子 お父さんと？

八重子 うん。

鞠子 やだよ。

八重子 私もお父さん似がよかったなー。

鞠子 ああ、そう言われると母親似だね八重子は。

八重子 そう。

鞠子 八重子のお母さん美人じゃん。

八重子 ありがとう。

鞠子 でも八重子が美人ってわけじゃないから。

八重子 あっそ。

(笑み) うそうそ。可愛いぞ。

八重子 気持ち悪いこと言わないで。

鞠子 学校の男子は寄ってくるか？

八重子 こない。

鞠子 じゃあ片思いか。

八重子 まあね。

鞠子 はつきりわかるの？

八重子 そうだね。

鞠子 確認した？

八重子 確認して？

鞠子 いや、相手に好きな人はいるのか。

八重子 まあ、いるんじゃない？

鞠子 ええー。それどこ情報。

八重子 関係筋。

鞠子 なあによそれ。

八重子 だからさ、私が聞きたいのはそうじゃないんだって。

鞠子 ああ、私は、付き合ったことない。

八重子 だよ。

鞠子 一言多いんだよお前は。

八重子 八重子。

鞠子 ……あのさ、人には名前呼べっていう割に、私のこ

と呼んでくれないよね。

八重子 呼んでほしい？

鞠子 そりゃね。

八重子 へえー。

鞠子 へえーってあんた。

八重子 八重子。

鞠子 ハイハイ八重子。

八重子 そもそも、誰であれあんまり名前では呼ばないかも。

鞠子 そうなの？

八重子 「ねえ」とか「あのさ」とか。

鞠子 でも必要なときって絶対出てくるでしょ。そのとき

八重子 呼んでよ。

鞠子 ……。

八重子 嫌なの？

鞠子 別に、いいけど。

八重子 一応さ、気に入ってたんだ。

鞠子 誰がつけたの？

八重子 えー、お爺ちゃんかな？ なんかも本当は「鞠」だけ

鞠子 だったんだけど、画数的に足りないからって「子」

八重子 がついたの。

鞠子 なにそれ。

八重子 適当だよな。

鞠子 うん。

八重子 最初の「鞠」っていうのは、お父さんが選んだら

鞠子 いけど。

八重子 どんな意味？

鞠子 さあ。

八重子 さあって。

鞠子 八重子は自分の知ってるの？

八重子 勿論。

鞠子 どんな？

八重子 新島八重って知ってる？

鞠子 ああ、前に大河ドラマで。

八重子 そうそう。

鞠子 あの人由来なんだ？

八重子 お母さんがね、元々その人が好きらしくて。ドラマ

鞠子 になるって聞いてそれはもう喜んで観てた。

八重子 いいね、ちゃんとしてて。

鞠子 だからさ、そっちも聞いた方がいいよ。

八重子 そっち？

鞠子 だから、その、

八重子 その？

鞠子 ……あなたも。

八重子 鞠子！

鞠子 ええー。

八重子 ええーじゃないよ。

鞠子 こっぴどくかしいー。

八重子 私だって最初は八重子って呼ぶの大変だったよ。

鞠子 別に頼んでないのにー。

八重子 人に名前の由来聞けまて言っておいて自分は人の

鞠子 ハイハイわかったよ。呼べばいいんですよ。

八重子 よし。

鞠子 今度からね。

八重子 えー。

鞠子 それで？

鞠子 なにが。
八重子 付き合ったことがないのはわかった。好きな人はいる？
鞠子 なんでそんなこと聞くのよ。
八重子 だからさ、恋ってどんなのか知りたいの。
鞠子 ……。
八重子 いる？
鞠子 (頷く)
八重子 わお。
鞠子 いや、でもね
八重子 誰。
鞠子 ……。
八重子 同じ高校？ 同じ学年？
鞠子 仕方ないなあ。
八重子 言ってすっきりしてください。
鞠子 あんたが聞かなきゃ言わないんだからね。
八重子 相談にのるしー。
鞠子 乗られる側でしょ。
八重子 まあまあそう言わずに。
鞠子 ……同級生。
八重子 おおー。
鞠子 同じクラス。
八重子 かつこいい？
鞠子 かつこいい。
八重子 やー、顔がニコニコしてて気持ち悪いー。
鞠子 気持ち悪いって言うな！
八重子 やだー。

鞠子 人は恋をすると気持ち悪くなるんだよ！
八重子 そうなの？
鞠子 鏡みてみなさいよ。
八重子 じゃあ自分も見てよ。
鞠子 ええ？
2人 2人、それぞれベッドにおいてある手鏡を取って見る。
鞠子 あー。
八重子 んー。
2人 そうだね。
鞠子 鏡を片付ける。
鞠子 笑顔が増えるっていいことよ。何より活力が湧いてくる。
八重子 それはわかる。
鞠子 毎日学校へ行くのが楽しみだ。
八重子 それはわかんないけど。
鞠子 だって好きな人に会えるんだよ？
八重子 んー。
鞠子 なに、あんまり会えない人？ ってことはやっぱり卒業した先輩か！
八重子 まあ、先輩だね。
鞠子 え、じゃああれじゃん。うちの高校の可能性も？
八重子 それは残念。
鞠子 あー、なんだ。

八重子 面白そうだと思ったよね。

鞠子 そりゃね。

八重子 でも被る可能性もあるんだよ。

鞠子 被る？

八重子 2人が同じ人を好きになってる可能性。

鞠子 え、え、なに。まさかあんたも藤田くんのこと??

八重子 あ。

鞠子 え？

八重子 藤田くんっていうんだ！

鞠子 え、ねえ、違うよね？

八重子 違うよ。

鞠子 びっくりしたー。

八重子 藤田なんていうの？

鞠子 それは別にいいじゃん。

八重子 どんな人？

鞠子 クラス会長で、みんなから信頼、されてるかな。

八重子 真面目なんだ。

鞠子 まあね。でも運動神経も良いし。面白いよ。

八重子 へえ。

鞠子 笑うと可愛い。顔がくしゃってなるんだ。

八重子 どんな感じ？

鞠子 こう、クシャって。

カシャッと携帯で写真を撮る八重子。

鞠子 え。

八重子 こんな感じかー。

鞠子 ちよっと！ 何撮ってんの！

八重子 恋する顔。

鞠子 消してよ気持ち悪いんだからー！

八重子 やだ。

鞠子、八重子を追いかけまわす。

そんな気持ち悪いの取っついてどうすんの。

参考資料。

鞠子 八重子 なに馬鹿なことを。

八重子に迫りつけず、諦める鞠子。

はあ、すばしっこい奴。

写真持つてる？

鞠子 なんの。

八重子 藤田君の。

まあ、こないだの体育会で撮ったやつがあるけど。

見せて。

鞠子 やだよ。

八重子 なんて。

逆になんで見せなきゃなんないのよ。

参考に。

鞠子 じゃあ取引。

八重子 どんな。

八重子の好きな人の写真も見せて。

ない。

鞠子 1枚くらいあるでしょ。

八重子 ないの。

鞠子 せっかく携帯買ってもらったんだから活用しなよ。

八重子 じゃあ見せてくれたら、さっきの変顔消すよ。

鞠子 さっきの別に変顔じゃないし。

八重子 手が滑って画像投稿しちゃうかも。

鞠子 やめてよ。

八重子 じゃあ見せて。

鞠子 ずる賢いなあ。

鞠子、八重子のベッドに座って、

鞠子 えつとねえ、

鞠子、嬉しそうな顔。

八重子 あのさ、

鞠子 ん？

八重子 見せたかったんでしょ。

鞠子 いやいや、

八重子 溢れ出てるから。

鞠子、自分の頬をぺちんと叩く。

鞠子 これ。

八重子 どれ。

鞠子 (指して) この人。

八重子 へえー。

鞠子 かつこいいでしょ。

八重子 うん。

鞠子 輝いてる。

八重子 眉毛が太くて良い。

鞠子 どこ見てんのよ。

八重子 ほんと、クシャットしてる。

鞠子 可愛いでしょ。

八重子 そつかあ。

鞠子 そうなの。

八重子 毎日会うんだ。

鞠子 毎日会うよ。

八重子 ドキドキする？

鞠子 朝起きてすぐドキドキする。

八重子 よく話す？

鞠子 たまにね。どうってことないけど。

八重子 遊びに行ったりしないの？

鞠子 まあ、そこまではちよつと。

八重子 連絡は？

鞠子 知ってるけど、あんまり。

八重子 なんて？

鞠子 いやあ

八重子 応援する。

鞠子 ……

八重子 私応援するよ。

鞠子 そりゃありがたいけどさあ。

八重子 けど、なに？

鞠子 自分のペースってのがああるじゃない。急いではことを仕損じるって。

八重子 いつ連絡するの？

鞠子 そのうち。

八重子 本当に好きなの？

鞠子 ……好きだよ。そうじゃなきゃ、あんなにドキドキしない。

八重子 どんな風にドキドキするの？

鞠子、八重子と視線を合わせる。

鞠子 目なんて合わせられない（背ける）。

八重子 なんで？

鞠子 自信ないし。

八重子 なんの？

鞠子 だって、地味だし。可愛くないし。

八重子 卑屈なあ。

鞠子 他に可愛い子たくさんいるよ。藤田君はモテてる。

八重子 藤田君は顔で判断する人なんだ。

鞠子 いや、そんな人じゃない。

八重子 じゃあ大丈夫じゃん。

鞠子 あのさあ

八重子 勇気だせよ（鞠子の背中を叩く）。彼女いないんでしょ？

鞠子 （頷く）たぶん。

八重子 たぶん？

鞠子 いないって噂。

八重子 聞いてみよう。

八重子、鞠子のスマホを取って

鞠子 ちよつと、なにすんの。

八重子 パスワードは？

鞠子 いきなりなんていうのよ。

八重子 こんばんは。夜中にごめんね。彼女いる？

鞠子 変な奴じゃん！

八重子 インパクト大でしょ。

鞠子 印象悪いよ。狙ってる感全開。

八重子 いつまでもフリーとは限らないよ。こうしてる間にも、他の人が藤田君とやりとりしてるかも。

鞠子 ……。

八重子 今どんな気持ち？

鞠子 お腹、気持ち悪い。

八重子 ずどーんとくる？

鞠子 きてる。

八重子 やだやだやだって、なる？

鞠子 そりゃ、やだよ。

八重子 彼女になった人は、いろんなこと、するんだよ。

鞠子 藤田君と。

八重子 ……。

鞠子、ワナワナし始める。

八重子 私たちの知らない所で、ことは着実に進んでる。

鞠子 気づいたときにはもう手遅れ。

八重子 手遅れ……。

八重子 もう、手は届かない。

鞠子 やだ。

八重子 虚しい夢。

鞠子 そんな。

八重子 孤独な妄想。

鞠子 (八重子から携帯を取る)

八重子 指をくわえて見てるのか。

鞠子 ……いやだ。

八重子 じゃあ鍵を開けろ。

鞠子 (パスワードを解除)。

八重子 伝えるんだ。

鞠子 なんて。

八重子 知りたいことを聞くんた。

鞠子 知りたいこと。

八重子 好きな人はいますか。

鞠子 急すぎる。

八重子 でも好きになるのは、一瞬でしょ？

鞠子 ……八重子。

八重子 ん？

鞠子 あんた、私よりよくわかってる。

八重子 ……。

鞠子 私に恋愛なんて無理だ！。

八重子 鞠子、ベッドに倒れこむ。

鞠子 無理なことないよ。

八重子 勇気がない。

八重子 お酒でも飲む？

鞠子 飲んで勇気が出るなら飲むけど。

八重子 ビール。

八重子、取りに行こうとする。

鞠子 いいよ、ねえ。冗談だって。

八重子、ふくれっ面。

鞠子 八重子さあ。どうしたの。

八重子 別に。悩んでると思ったら、急に恋のキューピットになるの？

鞠子 そうだよ。

八重子 変。

鞠子 ……わかんない。

八重子 もしかして他にあるの？

鞠子 なにが。

八重子 恋愛のことじゃないの？

鞠子 八重子、携帯の時計を確認し、

八重子 お風呂。冷めるよ。

鞠子 八重子、部屋を出ていく。

八重子 鞠子、携帯を見つめて、閉じる。タオルとパジャマを持って去る。

しばらくの間。

そこへ八重子が入る。

八重子、ベッドの下からアルバムを出す。

ベッドに寝転がってページをめくる。

八重子、歌『花嫁』※を口ずさむ。

そこへお風呂あがりの鞠子が入る。

八重子、歌をやめる。

鞠子 それなんて歌？

八重子 なにが？

鞠子 今の歌。

八重子 さあ。

鞠子 今度カラオケ行こっか。

八重子 ……いいよ。

鞠子 それはどっちの「いいよ」？

八重子 行ってもいいよ（アルバムを閉じる）。

鞠子 本当は超行きたいくせにー。

八重子 別に、先週友達と行ったし。

鞠子 ふうん。

間。

鞠子 それ、アルバム？

八重子 他に何に見える？

鞠子 お見合い写真？

八重子 （笑み）ぶ厚すぎ。

鞠子 （笑む）

八重子 ……取ってある？ 写真とか。

鞠子 あるよ。アルバム。

八重子 そっか。

鞠子 見る？

八重子 （嫌そうな顔）

鞠子 嫌ならいいよ。

八重子 ううん、見る。

八重子、鞠子のベッドに座る。

鞠子はベッドの下からアルバムを出す。

赤ちゃんの頃から、小学生のときまで。

可愛い。

我ながら可愛いと思う。

やっぱりと鼻がそっくり。

そうなんだよねえ。この写真なんてさ、

同じ顔が2つ並んでるー！

これは獅子舞のときのやつ。

かっこいい。

お父さん顔超若い。

うん。

こっちは、3歳かな。お母さんとソリで滑ってさ、

このあと転ぶの。

…。

あつ、こっちは海で、お父さんとき、お母さんを砂で埋めたの。1日中やってて日焼けがやばかった

なー。

八重子

楽しそう。

鞠子

この頃はまだ、よく家にいてくれたから。

八重子

大体、お父さんが写真撮ってるんだね。

鞠子

うん。カメラが趣味だし。

八重子

古い奴、あるよね。

鞠子

うん。あれでもよく撮ってた。運動会するときなんて

さ、他の人がいるのに私だけ撮ろうとして感じ悪

くってさ。恥ずかしかったし、確か怒った。それか

らかな、なんとなく、反抗期。

八重子

反抗期。

鞠子

八重子は？

八重子

反抗期？

鞠子

うん。

八重子

私はー……小5かな。お父さんの、お父さんの車か

ら、女の写真が出てきた時。私が、お母さんに見せ

たんだ。

鞠子

……。

八重子

それがきつかけ。

鞠子

……そっか。

八重子

確かその頃だった。

八重子、自分のアルバムを持ってきて見せる。

鞠子

なにこれ、ホラー映画みたい。

八重子

(笑み)確かに。

鞠子

でもなんか、私もそんな気持ちだったかも。

八重子

きれいじゃん。

鞠子

八重子ほど、恨むっていうか、憎みきれなかった。

八重子

お父さんのこと。

八重子

……でもむかつくのはさ、これ、写真に直接マジッ

鞠子

クで塗り潰してるんじゃないんだよ。

八重子

あ、ほんとだ。

鞠子

(写真を抜き出して)前は本当に、むかついてたはず

八重子

なんだけど。違ったのかな。

鞠子

どっちもあるんだよ。好きだけど、嫌いって。

八重子

そうだね……。

鞠子

前はって、言ったけど。今は？

八重子

……。

鞠子

全然、答えなくてもいいけど。

八重子

今は、なんとも思っていない。

鞠子

そう？

八重子

自分でも不思議。いや、別に不思議じゃないか……

鞠子

むしろ、

八重子

むしろ？

八重子

(溜息)まあ、なるべくしてなったんだ。一人っ子

鞠子

だったのが、ふたりっ子になったんだ。

八重子

うん。

八重子

これでよかったんだよ。

鞠子

(八重子の頭を撫でる)

八重子

やめてよ。

鞠子

可愛いとこあるじゃないか。

八重子

気持ち悪いよ。

鞠子

照れるなよー。今日一緒に寝ようか。

八重子　ほんとキモいよ。

八重子、自分のベッドに戻る。
2人、アルバムを片付ける。

鞠子　会うことあるの？

八重子　ない。会いたくない。

鞠子　そうだよね。

八重子　そっちは会うんでしょ？

鞠子　まあね。鞠子はたまに会います。

八重子　どんな気持ち？ そっちは。

鞠子　そうだねー、鞠子はね、複雑な気持ちですよ鞠子は。

八重子　(笑む) それうける。

鞠子　呼ぶまでやるから。

八重子　誰が？

鞠子　鞠子が。

2人、笑う。

鞠子　いやぶっちゃけさ、どっちもどっちだと思うの。

お父さんもお母さんも、自分が第一だったんだよ。
自分のしたいこと、譲れなかったんだよ。子供より
も。

八重子　でも会いに来たお母さんはさ、ほんとに、喜んでる
んでしょ？

鞠子　そうだね。こないだは、デートみたいだった。プラ

八重子　ネタリウムなんか見ちゃって。デートだった。
好き同士だ。

鞠子　そう。そのはず。

八重子　どっちがプラネタリウム見たって言ったの？

鞠子　私が先。

八重子　とつとけよー。

鞠子　ほんとだよね。

八重子　藤田君と行っても新鮮味ないよ。

鞠子　いいよ、初体験のフリするから。

八重子　初体験って言い方。

鞠子　いやいやいや、そういうふうに受け取る方がおかし
いでしょ。

八重子　初体験って。

鞠子　ちよつとやめてよマセてるなあ。

八重子　えー。

鞠子　なに。

八重子　こわいよ？ 今どきの中学生。

鞠子　いいいい、そういう話。

八重子　高校生なんてもつとじゃない？

鞠子　あーあー聞こえない。

八重子　藤田君と付き合ったらさ、やっぱりいつかはそうい
うことに。

鞠子　ハイ寝るよー。電気消すからねー。

鞠子、電気の紐を引っ張る。
暗。

八重子　ちよつとー。

鞠子　金曜だからって夜更かしは駄目。

八重子 明日は連絡するんだよ。

鞠子 おやすみー。

八重子 藤田君。

鞠子 もう、言わなきゃ良かった。

八重子 だってー。

鞠子 自分は名前も教えないくせに。

八重子 今は言えない。

鞠子 なんて。

八重子 言えないの。おやすみー。

鞠子 勝手だな。

しばらくの間。

八重子 ねえ。

間。

八重子 寝ちゃった？

間。

八重子 鞠子。

鞠子 なに？

八重子 聞こえてたんじゃん。

鞠子 呼んだね。ついに。

八重子 うれしい？

鞠子 まあ、そこそこ。

八重子 (笑み) なんだよそれ。

鞠子 寝れないの？

八重子 ……

鞠子 羊数えよつか。羊が

八重子 やだ。

鞠子 じゃあ、お話？

八重子 絵本？

鞠子 即興で、話をつくる。

八重子 そんなことしたら目がさえちやいそう。

鞠子 お父さんがさ、よくやってくれた。

八重子 ふうん。

鞠子 いつも終わる前に寝ちやうからラストまで聞いたことないんだよね。

八重子 じゃあそっちから。

鞠子 えー。鞠子寝れないじゃん。

八重子 じゃあターン制にする？

鞠子 いいね。

八重子 じゃあそっちから。んー。昔々ある所に、誰でもすぐに眠らせてしまう絵本がありました。

鞠子 絵本がありました。

八重子 なんて。続けて。んー。その絵本の始まりはこうです。昔々ある所に、誰でもすぐに眠らせてしまう絵本がありました。ハ

イ。

その絵本の始まりはこうです。昔々ある所に、誰でもすぐに眠らせてしまう絵本がありました。

鞠子 ……おしまい。

2人

八重子、電気をつける。
2人、顔を見合わせて

だめじゃん。

2人

先に進まないよ。

八重子

新しくない？

八重子

ああ、羊を数える的な？

八重子

無限ループ。

八重子

じゃあ同じやつというの禁止ね。

八重子

わかった。

八重子、電気を消す。

八重子

どっちから？

八重子

じゃあ。昔々あるところに

八重子

ねえねえねえ

八重子、電気をつける。

八重子

それで始まんなきやだめなの？ 笑っちゃうんだけど。

八重子

わかったわかった。えー、遠い遠い未来のお話です。

八重子

おっ、いいね。

八重子、電気を消す。

八重子

ある所にA子が住んでいました。その子には好きな人、B男がいたのですが、そのB男にも好きな人が

いました。さてどうしたものか、A子は考えました。
ハイ。

八重子、電気をつけて

八重子

複雑！

八重子

そう？

八重子

なんでもいきなり昼ドラマみたいな展開にした？

八重子

せつかくなら面白いほうがいいじゃん。海外ドラマみたい。

八重子

それ眠れなくなるやつだよ。

八重子

ハイ、消して。

八重子、消す。

八重子

えー。B男の好きな人は誰も知りません。付き合っているのかどうかも定かではありませんでした。ハイ。

八重子

しかしある日、A子は聞いてしまいました。B男の好きな人は、人妻だと。ハイ。

八重子

あのさ、

八重子

続けて。

八重子

その人妻は、旦那が家にいないので、寂しかったのです。B男との一度の過ちが、すべてを、壊してしまします。

八重子

……。

八重子

フィクションだから。

八重子

うん。

鞠子 ……。
八重子 A子はそのことを知って、B男が嫌いになりました。そして、人妻の旦那を好きになりました。優しくて、頼りになる、大人の男性でした。

鞠子 旦那は仕事に明け暮れていましたが、妻の裏切りによって気づいたのです。自分の愚かさ。ですが、裏切りは許せません。半年後、人妻は人妻でなくなり、旦那は旦那でなくなりました。ただのC子とD男に生まれ変わったのです。

八重子 A子とD男は次第に近づき、

鞠子 愛し合うようになりました。

八重子 いいえ、愛し合えません。どうして。

八重子 二人は家族だからです。

鞠子 家族。
八重子 D男には、妻がいたのです。ストロップ。

鞠子、電気をつける。

鞠子 (笑む) 八重子さ、話無茶苦茶に……。

八重子、顔に布団をかけている。

小さく、泣いているような。

鞠子 八重子？

八重子 ーん？

鞠子、八重子の布団をめくろうとする。
八重子は抵抗する。

八重子 なに、やめてよ。

鞠子 泣いてるの？

八重子 泣いてないし。

鞠子 今のはフィクションだよ。

八重子 知ってる。

鞠子 私のお母さんが浮気したかなんて知らないし、知りたくもないし、ただ話の流れ的に言っただけだし。

八重子 してるはずないって言えないの？

鞠子 ……。

八重子 お母さんは浮気してないって言えないの？

鞠子 してないよ。

八重子 ……。

鞠子 なんで泣いてるの？

八重子 別になんでもない。

鞠子 何？

八重子 寝よう。

鞠子 ねえ、なんか気持ち悪い。

八重子 なんで。

鞠子 知らない。

八重子 関係ないじゃん。

鞠子 さっきの話気持ち悪いよ。なんか、変。

八重子 ……ごめん。

鞠子 何が？

八重子 鞠子。

鞠子 ……。

八重子 私、好きな人がいる。

鞠子 うん。

八重子 ……。

鞠子 ……。それで？

八重子 鞠子、

鞠子 なに、八重子。

八重子 私のお母さんと鞠子のお父さんはさ、結婚、するの

かな。

鞠子 ……。

八重子 八重子と鞠子はさ、ほんとに姉妹になるのかな。

鞠子 ……。

八重子 私、まだ準備できてない。

鞠子、八重子を抱きしめる。

八重子 再婚してないってことは、今度は簡単に別れられる

よね。面倒な手続き、要らないよね。

鞠子 うちら、もう半年、同じ部屋で寝てるし、同じご飯

食べて同じお風呂に入ってる。もし別れても、うち

らはもう家族だよ。

八重子 ……。(首を横に振る)。

鞠子 ……。

八重子 お姉ちゃん。

鞠子 うん。

八重子 私、お父さんが好き。

鞠子 ……。会いに、行けばいいじゃん。八重子のお父さん、

会いたがってるんでしょ？

八重子 違う。違うの。

鞠子 なにが。

八重子 私、鞠子のお父さんが好き。

鞠子 ……うちのお父さんも、八重子のこと本当の娘だと

思っ、

八重子 それじゃあ嫌なの。

鞠子 ……八重子、あんた、

八重子 ごめん。

鞠子 嘘でしょ？

八重子 ……。

鞠子 は？

八重子、部屋から走り去っていく。

鞠子、呆然としている。

長い間。

鞠子、部屋を出る。

溶暗。

上手舞台前方に八重子が照らされる。

八重子 ……どこ行こう……。

八重子、とぼとぼと暗闇に消える。

次に、同じ明かりに鞠子が入ってくる。

鞠子 八重子ー！（辺りを探している）あいつ……

(どこへ行ったか考える)。

鞠子、駆け去る。

暗。

すぐに明。

鞠子が部屋に帰ってきて、八重子の携帯を見る。

鞠子

パスワード……(八重子の誕生日を入力) 違うか。

(八重子の母の誕生日を入力) 違う……。

(鞠子の父の誕生日を入力) ……開いた。

鞠子、八重子の電話帳から八重子の父の電話番号を見つける。

鞠子

……あ、もしもし。夜分すみません。あの、私、いま八重子さんと暮らしてる、鞠子と言います。

姉妹、やらせてもらってます、一応。一応っていうか。本気っていうか、マジっていうか。本気と書いてマジっていうか……え？ いるんですか？ ……

はい。……良かったです。……はい。でも、いえ、いま迎えに行きます。あの、こういうと失礼っていうか、自分勝手ですけど、うちのお父さんと、八重子のお母さんに、話したくないんですよ。八重子が、

あなたの所に行ったって。ごめんなさい。でも、お願いします(お辞儀) ……。

鞠子、部屋を出る。暗。明。

鞠子が八重子を引っ張って部屋に入る。
八重子、無言で布団に入る。

鞠子
なんか言うことないわけ？

八重子

……。

鞠子、八重子の布団をはぎ取る。
八重子、鞠子を睨み、枕を投げる。
投げ返す鞠子。

鞠子

あんたは、実のお父さんが恋しいだけでしょ！

八重子、鞠子につかみかかる。

鞠子

うちのお父さんは、うちの母さんのもんなんだから。

八重子

はあっ？

うちの父さんはあんたのもんでもあんたの母さんのもんでも私のもない、私の母さんのもんなんだよ！

八重子

意味わかんないキモい！

鞠子

お前の方がキモい！

八重子

もう……みんなキモい！

鞠子

そうだよ、みんなキモいよ！

2人、ベッドに倒れ込む。

八重子

もうやだ。

鞠子

どうすりゃいいのよ。

八重子　なんで、こんなことになんきやいけないの？

鞠子　知らないよ、なりたくてなったんじゃない。

八重子　私だってこれまで一人っ子で自由にやってきたのに。

鞠子　いきなり2人部屋でただけ気がかっつてると思っ

八重子　私だって。

鞠子　あんた使ったもの置きっぱなしで片付けないし、風

八重子　呂はいつつもあんたが先！

八重子　ここはそっちの家だから、箸もコップも椅子も机も

八重子　冷蔵庫も洗濯機もカーテンもエアコンも臭いも空気

八重子　も全部全部みーんな私のものじゃないんだよ。お母

八重子　さんさえ他所んちのお母さんみたいになりやがっ

八重子　て。あんたんちのお母さんみたいになりやがっ

八重子　て。あんたが、みんないいもの取っつていっつちやっ

八重子　て……。いくとこが、ない。

問。

鞠子　私だって、私だって侵略者が来て怖いんだよ。乗っ

鞠子　取られそうで怖いんだよ。でも仲良くしなきゃあの

鞠子　2人が駄目になるんだよ。私たちが、仲良くしな

鞠子　きゃ。

八重子　……無理やり？

鞠子　姉妹って、喧嘩するもんじゃない？

八重子　知らない。

鞠子　佳代ちゃん、妹の腕折ったって。

八重子　誰。

鞠子　うちのクラスの、佳代ちゃん。4人きょうだい。

八重子　DVじゃん……。

鞠子　でも、週末にいつも出かけてるって。家族そろって。

八重子　……なんかキモい。

鞠子　……キモいね。

八重子　でも、

鞠子　でも、

問。

八重子　大人は勝手だ。

鞠子　大人は無責任だ。

八重子　大人は偉そうだ。

鞠子　大人は、

八重子　……。

鞠子　……。

八重子　なに。

鞠子　……私、来年受験生だよ。

八重子　……。

鞠子　県外、行くよ。あと1年ちよつとで。

八重子　だから？

鞠子　あんた、やっていける？

八重子　なにそれ。意味わかんない。

鞠子　私はあるがいて良かったかもしれない。同じ立場

八重子　の子がいて、救われてたところもあったかも。

鞠子　……。

八重子　あんたは私より繊細だから

八重子　八重子！

鞠子 ……。
八重子 私は八重子だ。
鞠子 ……八重子。

鞠子、八重子の肩に触れようとする。

鞠子 ねえ。
八重子 やだ、触んな。

八重子、部屋の隅で丸くなる。
鞠子、携帯でその様子を動画で撮る。

鞠子 はーい、いま夜の十二時半でーす。さつき、初めての姉妹喧嘩をしましたー。原因は、お互いの親が再婚だからでーす。丸まってる妹に話を聞いてみたいと思います。現場の八重子さーん。
八重子 頭おかしくなったんじゃない！？

八重子、ベッドの下に潜り込む。

鞠子 おーっと。八重子ちゃん、ベッドの下に潜り込みました。どんな気分ですかー？

八重子 さいつあく！
鞠子 最悪だそうですー。では私も最悪な気分になってみましょう。

鞠子も自分のベッドの下に潜り込む。
間。

突然静かになったので、顔を出す八重子。

八重子 ねえ。なんで急に黙ったの…ねえ。
鞠子 ああ……ひんやりしてますねえー（涙声）。
八重子 ……。

八重子もベッドの下に戻る。

鞠子 ひんやりして、気持ちがいい。真っ暗で、せまーい。
八重子 ひんやりして、気持ちがいい。真っ暗で、せまーい。

2つのベッドの下から、2人の泣き声が響く。

溶暗。

目覚まし時計の音。
溶明。

舞台には誰もいないように見えるが、ベッドの下から手が出る。

手は鞠子のものだ。

鞠子、寝ぼけながら目覚ましを止める。再びベッドの下に入ろうとするが、今度は八重子の目覚まし鳴る。しかし八重子は無反応。

鞠子、仕方なく八重子を引きずり出す。

八重子 止めといてよー。
鞠子 自分でやれー。

鞠子、ベッドの下に潜らず、床で寝る。
八重子、よろよろ立ち上がり、目覚ましを止める。
八重子も床に転がる。

八重子 今日土曜日だよ。

鞠子 止め忘れた。
八重子 二度寝。

2人、あくび。

鞠子 今日絶対目腫れてる。

八重子 いつも腫れてるようなもんじゃん。

鞠子 あん？

八重子 一重。

鞠子 一重を馬鹿にすんな髪の毛死んでるくせに。

八重子 あー、最低。

鞠子 あんたも最低。

八重子 八重子。

鞠子 鞠子。

間。

八重子 鞠子。

鞠子 八重子。

八重子 ふっ、キモい。

鞠子 次はお姉ちゃんって呼んで。
八重子 調子に乗るんじゃない。

八重子、鞠子にデコピン。

鞠子 いった。姉に向かってなんてことを。

鞠子、枕を探して八重子に投げる。

八重子 へなちよこ。

鞠子 あーだめだ。眠い。

鞠子、あくび。

つられて八重子もあくび。
床でダラダラする2人。

八重子、『花嫁』を口ずさむ。

鞠子 それなんなの？

八重子 ……お父さんが、よく聴いてた歌。

鞠子 ふうん。

鞠子、八重子の歌をしばらく聴いて、
携帯で調べ始める。

鞠子 昔の歌だね。

八重子 歌詞出てる？

鞠子 うん。

音楽『花嫁』が流れる。
2人、うつ伏せに寄り添い、
携帯を覗き込んで一緒に歌詞を見る。
途中から一緒に歌い始める。
2人の表情には微笑みが見える。
行き先は、明るい。

—幕—

※『花嫁』 はしだのりひことクライマックス

(年代に合わせて変更してください)